

殺菌消毒剤

※ テゴ-51® 消毒液 30%

(アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩消毒液)

TEGO51® Disinfectant Solution 30%

承認番号	22000AMX00645000
薬価収載	未収載
販売開始	1957年 9月
再評価結果	1982年 8月

貯 法：気密容器、室温保存
 使用期限：ラベルに表示
 注 意：取扱い上の注意の項参照

【組成・性状】

	テゴ-51消毒液30%
成分・含量	アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩30% 「日本薬局方」精製水70%
性 状	帯黄色の粘性な液で、わずかに特異なおいがある。
pH	7～9[水溶液(1→30)]

【効能・効果】

- 医療用具の消毒
- 手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒
- 手指・皮膚の消毒
- 手術部位(手術野)の皮膚の消毒
- 手術部位(手術野)の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒

【用法・用量】

アルキルジアミノエチルグリシンとして下記の濃度になるよう水で希釈して、次のように使用する。

- 医療用具の消毒
0.05～0.2%溶液に10～15分間浸漬する。
- 手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒
0.05～0.2%溶液を布片で塗布・清拭するか、又は噴霧する。
- 手指・皮膚の消毒
0.05～0.2%溶液で約 5 分間洗った後、滅菌ガーゼあるいは布片で清拭する。
- 手術部位(手術野)の皮膚の消毒
0.1%溶液で約 5 分間洗った後、0.2%溶液を塗布する。
- 手術部位(手術野)の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒
0.01～0.05%溶液を用いる。

なお、結核領域において、上記1、2に用いる場合は0.2～0.5%溶液を用いる。

〈希 釈 法〉

テゴ-51消毒液30%は、一度10%液に希釈してから以下の表に従い、希釈することが望ましい。

テゴ-51消毒液10%参考希釈法

%	0.01%	0.05%	0.1%	0.2%	0.5%
希釈倍数	1000倍	200倍	100倍	50倍	20倍
テゴ-51消毒液10%量	1mL	5mL	10mL	20mL	50mL
全 量	1000mL				

【使用上の注意】

1. 副作用

副作用の記載のある文献の集計では、約700例の使用症例中少数例に痒痒性湿疹、皮膚刺激性等が認められている。

(再評価結果)

	0.1～5%未満
過敏症 ^{注)}	発疹、痒痒感等

注)発現した場合には、使用を中止すること。

2. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤で消毒したカテーテルで採取した尿は、スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

3. 適用上の注意

(1) 人体

1) 使用時

- ア 外用にのみ使用すること。
- イ 原液又は濃厚液が眼に入らないように注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。
- ウ 散布消毒の場合はマスクを着用するなど注意すること。
- エ 濃厚液の使用により、皮膚・粘膜の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。
- オ 炎症又は易刺激性の部位に使用する場合には、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。
- カ 粘膜、創傷面又は炎症部位に長時間又は広範囲に使用しないこと。

2) 調製時

深い創傷に使用する場合は希釈液としては、注射用水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用いないこと。

(2) その他

使用時

石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん成分を洗い落としてから使用すること。

(3) 緊急処置

- 1) 眼に入った場合：洗浄の際、眼球、瞼のすみずみまで水がよく行きわたるように、清浄な水で15分以上眼を洗浄した後、直ちに適切な処置を行うこと。
- 2) 飲み込んだ場合：水でよく口を洗い、水又は牛乳を飲ませ(無理に吐き出させない)、直ちに適切な処置を行うこと。

【薬 効 薬 理】

1. 本剤は、両性界面活性剤で、強い殺菌力^{1～7)}と洗浄力^{8～11)}の両作用を有し、蛋白質、脂肪共存下でも殺菌力の低下が少ない^{6,7)}。
2. 本剤は、使用濃度において緑膿菌、結核菌、一般細菌、真菌等に有効であるが^{1～7)}、肝炎ウイルスに対する殺菌効果は期待できない。
3. 本剤は、広いpH域での作用を有する^{12,13)}。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩
 (Alkyldiaminoethylglycine hydrochloride)

示性式：[RNH・CH₂・CH₂・NH・CH₂・CH₂・NH・CH₂・COOH]・HCl
 (RはC₈H₁₇～C₁₆H₃₃、主としてC₁₂H₂₅及びC₁₄H₂₉からなる。)

【取扱い上の注意】

注 意：1. 次の医薬品が混入すると、沈殿が生じるので注意すること。

ヨードチンキ、マーキュロクロム、硝酸銀、フェノール、過酸化水素、過マンガン酸カリウム等

2. 本剤は多少色調の濃淡に差があることがあり、また、寒冷時にわずかに混濁を生じることがあるが、殺菌作用に影響はない。混濁は加温することにより溶解する。

- 3.鉄製の器具を長時間浸漬する必要がある場合は、腐食を防止するため0.2%の割合で亜硝酸ナトリウムを溶解し浸漬すること¹⁴⁾(殺菌作用に影響はない¹⁵⁾)。なお、銅製の器具は亜硝酸ナトリウムを添加しても腐食を防止できないので長時間浸漬しないこと¹⁴⁾。

【包装】

500mL、10L、18L

＊【主要文献】

- 1)立脇憲一 他：防菌防黴，9，465(1981)
- 2)川上由行 他：臨床と細菌，10，427(1983)
- 3)市川意子 他：防菌防黴，8，143(1980)
- 4)神木照雄：防菌防黴，5，T151(1977)
- 5)山田幸彦：歯科医学，31，506(1968)
- 6)Schmitz, A.：Fette u. Seifen, 55(1)，10(1953)
- 7)Sainclivier, M. et al.：XVI Internationales Hygiene-Kolloquium, p.12(1967)
- 8)芦山辰朗：医科器械学，49，519(1979)
- 9)芦山辰朗：病院設備，21(3)，15(1979)
- 10)芦山辰朗：外科治療，40，29(1979)
- 11)小林寛伊 他：医科器械学，44，403(1974)
- 12)Jensen, H.：Gutachten(1953)
- 13)芝崎 勲：新・食品殺菌工学，p.267(1983)
- 14)尾崎 晃：金属腐蝕及び防錆剤の検討に関する資料(社内資料)
- 15)関口 論：亜硝酸ナトリウム添加時の抗菌力の検討に関する資料(社内資料)

＊【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

アルフレッサ ファーマ株式会社 学術情報部
〒540-8575 大阪市中央区石町二丁目2番9号
TEL 06-6941-0306 FAX 06-6943-8212